

# 分会ニュース

## 分散特休21日と年休20日を消化するには 一日最低、14名の休みが必要！！

2月8日、関西支社は平成20年度の検修業務量を明らかにしました。交番検査の業務量は年間2,128編成で、大阪第二車両所では年間20日程度の分散特休が発生することも明らかにしてきました。

会社が明らかにした業務量からすると稼働日数は東京と大阪で1日8編成検査するので266日になります。社員の「特公休」は年間120日なので出勤日数は245日となり、その差21日が分散特休になります。

また、年休が20日あるので、実際には年間225日出勤すればいいのです。

そこで、分散と年休とを合わせて1日に何名の休みが必要かを計算しました。

休み（分散＋年休）人数の計算式

X = 1日の出勤人数

Y = 休み人数

$266 \times X = 225 \times (X + Y)$        $Y = 41 / 225 X$  で計算できます。

A担務 班長・副班長 4名      Gリーダー 7名      計11名

$Y = 41 / 225 \times 11 = 2.004 \div 3$       休み人数 3名

B担務 A班 10名      B班 13名      特修 6名      軸探 2名      計31名

$Y = 41 / 225 \times 31 = 5.648 \div 6$       休み人数 6名

C担務 A班 10名      B班 12名      特修 4名      計26名

$Y = 41 / 225 \times 26 = 4.737 \div 5$       休み人数 5名

合計休み人数（A+B+C担務） 14名

私達の計算によると、1日に最低14名を休ませないと年間の休日が消化できなくなります。会社は、平成20年度の要員は確保していると言っていますが、本当に要員を確保しているのでしょうか？

みなさん！！4月1日から本当に1日14名分の休みの枠があるか、確認する必要があります。なぜなら、そうでなければ要員が足りないということです。また、当たり前のように研修・出張等で年休が抑制される日が、今年度も数多くありました。研修・出張等のための要員は別枠にすべきです。

私たちJR東海労大二両分会は、注意深く監視し、十分な要員確保を要求していきます。